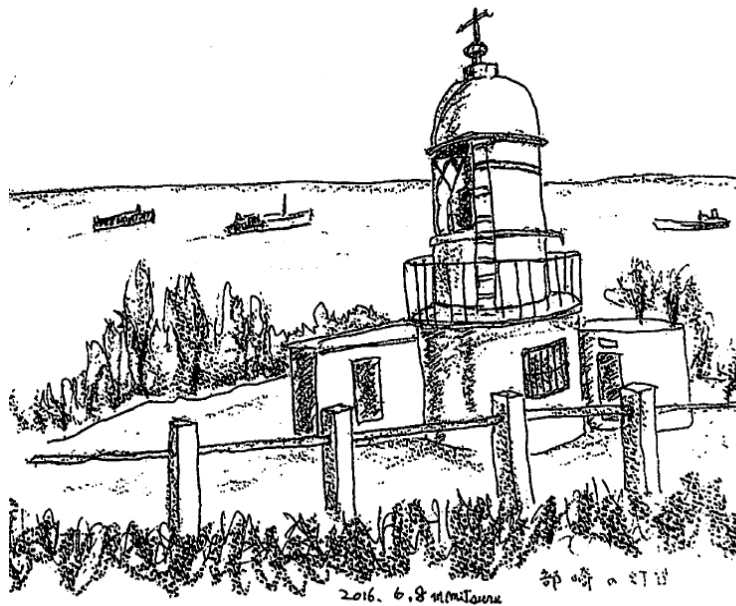


週報2020年5月17日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



2020年5月17(日) 聖日礼拝

前奏

力丸勝子師

お祈り

山崎牧師(動画を見ていない方はそれぞれで)

聖句唱和

コロサイ人への手紙 3章 15節

讃美

新聖歌 266「罪咎を赦され」

聖書朗読

ルカによる福音書 17章 11～19節

説教題

「深められていく主への感謝」

お祈り

御言葉の応答の祈り

讃美

新聖歌 172「望みも消え行くまでに」

お祈り

終祷(派遣と祝福の祈り)

後奏

力丸勝子師

報告

山崎牧師

交わりの三省

*互いに愛し合っていますか

*互いに赦し合っていますか

*互いに祈りあっていますか

説教要約

ルカによる福音書 17 章 11～19

I 導入

「深められていく主への感謝」

私達の信仰の旅路は「何を主に感謝するか？」この問いを深めるためにあります。今日の聖書箇所が登場人物は重い皮膚病を持つ 10 人です。彼らはイエス様によって癒されました。しかし、その中でイエス様の御許に帰って来たのはサマリア人一人だけです。(残りの人達はユダヤ人) 彼がイエス様の所に帰ってきた理由は、賛美するためです。このサマリア人は一見、イエス様の言葉に逆らった様にも見えます。何故なら主の言葉は「行きなさい。そして祭司に自分を見せなさい」だからです。これは旧約聖書の律法に従った言葉です。レビ記 14 章によると祭司の役割は重い皮膚病の症状を判別し、そして回復した人に「清い」と宣言する事です。この言葉通り、祭司の所に行ったユダヤ人、それに反してイエス様の所に戻ったサマリア人、正しい事をしたのはユダヤ人です。しかしイエス様はサマリア人が帰って来た事を喜び、迎え入れました。実際、イエス様が見つめていたものは彼の信仰です。サマリア人は与えられた奇跡を通じて、与え主の心(愛)が**わかったのです**。それが彼の喜びの源となり賛美へと変えられたのです。これが彼の信仰です。

ヘブル 3:1 そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。サマリア人は聖書の教えに反していません。主の心に立ち返り、感謝の捧げものを携えて大祭司イエスを礼拝したのです。与えられたものに固執したユダヤ人、与え主に栄光を帰したサマリア人。どちらが主の目には正しいか、この出来事はそれを人々に投げかけています。今日の問いかけは「何を主に感謝するか？」です。

II 本論 (証)

私にとって初めて親の労苦がわかった時は、自分が初任給を貰った時です。緊張の連続、失敗の連続、お説教の連続を経て受け取ったお給料、大きな感動がありました。そしてそれと同時に、今まで両親は何十年もこの事を繰り返し、今がある事に気付かされたのです。その時素直に「すごいなあ」と両親を尊敬しました。そしてそれが私の為、家族を養う為

だという事を知った時、又大きな感動が押し寄せてきたのでした。私はこの仕事を始めた時期と、教会をしばらく休んで、また戻って来た時期が大体同じでした。多くの人の祈りと愛によってイエス様の御許に立ち返る事が出来たのです。何が言いたいのかという、つまり「代価」の意味をこの時深く知ったのです。何の為の犠牲なのか？何のために労苦するのか？それは隣りの人を生かす為だと**わかったのです**。両親の愛の労苦も教会の人々の愛の労苦も、私の魂が生かされる為でした。その事を通じ、イエス様が十字架の代価を払うという意味を深く知ったのです。それは罪人の私が救われる為にです。私は初任給の使い道をほとんどお世話になった人の為に使いました。家族、牧師先生、特にお世話になった教会学校の先生方、そして神様にプレゼントをしました。その動機は感謝です。犠牲を伴う愛に対して、感謝を捧げなかったのです。

III 結論

私達は自分が感謝してもらえなかった事を覚えていても、人や神様に私にしてくれた感謝を忘れてしまいます。つまり自分の払った労苦に対する代価(見返り)に執着するという事です。犠牲を払っても無視され、耐え忍んだ事が無駄になる時に、怒り、不安、虚無感が心を支配するようになっていきます。私達の心を今支配しているのはキリストの平和です。主に生かされている安心から来る、感謝と喜びが信仰の土台になればならないのです。そしてその喜びは日々増し加わっていくものです。

ルカ 19:10 「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」ルカによる福音書で鍵句と言われる中心聖句です。イエス様は失われた一匹の羊を探し出し、救うためにこの世に来てくださいました。私達は主に見つけ出された一匹の羊です。見つけた主の喜びが、私達の心に流れ込んでくるのです。「私の子よ」その声が**わかった**、サマリア人は一目散に主の元に帰って行きました。そうせずにはいられなかったのです。賛美がその心を支配していったのです。日々恵みを与えて下さる主に感謝し、兄弟姉妹と共にこの喜びを分かち合い、そしてこの喜びを知らない多くの人に伝えていく。これが聖徒の使命です。その旅路の途中、喜びが無く、感謝出来ない日がやってきます。しかし主はその涙や忍耐、苦しみも良くご存じで、それらを喜びに変えて下さる方です。そしてこの喜びと感謝は深められて行くのです。私達を生かして下さる主は今も生きて働かれています。共に主を見上げ前進してまいりましょう。

新聖歌 266「罪咎を赦され」

1 罪咎を赦され 神の子となりたる

わが魂の喜び 比べ得るものなし

※日もすがら証せん 夜もすがら主をほめん

「御救いは妙なり 御救いは奇し」と

2 主に全く従い 安き得しわが身に

天つ家の歌声 響き来る心地す ※

3 主のものとせられし わが身こそ幸なれ

感謝なき日はなく 賛美なき夜はなし ※

新聖歌 172「望みも消え行くまでに」

1 望みも消え行くまでに 世の嵐に悩むとき

数えてみよ主の恵み 汝が心は安きを得ん

※数えよ主の恵み 数えよ主の恵み

数えよ一つずつ 数えてみよ主の恵み

2 主の賜いし十字架を 担いきれず沈むとき

数えてみよ主の恵み つぶやきなど如何であらん ※

3 世の楽しみ 富 知識 汝が心を誘うとき

数えてみよ主の恵み 天つ国の幸に酔わん ※

【新改訳改訂第3版】

ルカによる福音書

17:11 そのころイエスはエルサレムに上られる途中、サマリヤとガリラヤの境を通られた。

17:12 ある村に入ると、十人のツァラアトに冒された人がイエスに出会った。彼らは遠く離れた所に立って、

17:13 声を張り上げて、「イエスさま、先生。どうぞあわれんでください」と言った。

17:14 イエスはこれを見て言われた。「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中できよめられた。

17:15 そのうちのひとり、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、

17:16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であった。

17:17 そこでイエスは言われた。「十人きよめられたのではないか。九人はどこにいるのか。」

17:18 神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」

17:19 それからその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。」